

常なる磐

つねなる いわ seasonⅢ

令和 4年 4月 15日(金)
その2 通算 220号

◇ 常磐東を応援する自然の力…再生力

樹木が多く、自然豊かな本校だからこそ、その力に気付くことのできる有難さ。



ショウカワザクラ(春)

桜色から緑へ、すっかり装いを新たに
した校庭のショウカワザクラであるが、
葉桜となった今、その生命力の逞しさに
勇気をもらっている。

伸びた枝葉が事故を招く恐れがあったため、やむな
く太枝の一部を切り落としたのが今年の夏。「桜切る馬鹿、梅切らぬ馬鹿」は百も
承知ではあったが、已むに已まれぬ対応だ。

切り落とし面は処置したものの、桜は「切断箇所から傷んでいく」特性があり、
切り落とした枝も太いことから樹木の弱体化が懸念された。

ところがである。冬を超え、春にかけて新芽を伸ばし、ひょろっと伸びた小枝
から青々とした若葉をいくつも備えた。しかも若葉は、見た目以上に元気がある。
気づかなかったが、おそらく花も咲かせていたはずである。

自然の生命力の逞しさ、再生力に驚くとともに、ほっと胸をなでおろした。

幹が裂けるなど傷みの進む桜階段のソメイヨシノも、ショウカワザクラと同様に
各所から若枝を伸ばしている。勇気をもらい、本校名物の保護を固く心に誓う。



ショウカワザクラ(冬)





アベリア



立ち枯れが目立ち、丈の高い雑草に埋もれていた校舎東のアベリア。学区の柴中造園の中根康有さんからアドバイスを受け、大きく刈り込んだのが昨年秋。

冬の間はまるで枯れ木。再生は不能かと思われたが、この春に新芽を備え、日を追ってその数を増やしている。

もともとは移転新築年の植樹祭で、当時の児童によって植栽されたアベリアである。再生は喜ばしい限りだ。2年後には、立派な姿となっていることだろう。

ショウカワザクラとともに丁寧な剪定にあたってくれた山田校務員に感謝である。

4/4 ドウダンツツジ



玄関前のドウダンツツジは、まさにこれからが春の見頃。

秋の紅葉もいいが、鈴生りに満天星どうだんを付けた様は品があり、学校玄関を彩り、心を癒してくれる。

学校にお越しの際は、一見をお勧めする。

4/13 ドウダンツツジ

